

## 西遼建國の始末及び其の年紀

遼の將に亡びんとするや、其の一族耶律大石部下を率いて西走し、遂に所謂西遼(西方史家のカラキタイ即ち黑契丹といふもの)國を建て爾後殆んど九十年の間、中央亞細亞に於て契丹種族の勢を輝かすに至れり。西遼興亡の次第は遼史天祚紀の末に収録せられたるものを以て最も詳密となすべしと雖記事錯誤多くして據る可らず、亞刺比亞、波斯等の史乘に見ゆる所はまた極めて零碎の記事に止りて、其の真相を窺ふに足らず。されば兩者を合せ鑑みて之が史跡を闡明せんとせるもの少からずと雖、亦各々一得一失ありて、未だ全く其實を得たるものあらざるが如し。以下論述する所もまた正鵠を失する所少からざる可けれど、識者の教を待ちて此の問題に一步の進境を認むるを得ば幸なり。今先づ遼史天祚紀に附記せる所につきて其の建國の始末を抄出し順次之を批判するを以て順序とすべし。

耶律大石者、世號爲西遼、……保大二年、金兵日逼、天祚播越、與諸大臣、立秦晉王淳爲帝、淳死、立其妻蕭德妃爲太后、以守燕、及金兵至、蕭德妃歸天祚、天祚怒誅德妃、而責大石曰、我在、汝何敢立淳、對曰、……上無以答、賜酒食赦其罪、大石不自安、遂殺蕭乙薛披里括、自立爲王、率鐵騎二百宵遁、北行三日、過黑水、見白達達詳穩牀古兒、牀古兒獻馬四百、駝二十羊若干、西至可敦城、駐北庭都護府、會威武・崇德・會蕃・新・大林・紫河・駝等七州、及大黃室韋・敵刺・王紀刺・茶赤刺・也喜鼻古德・尼刺・達刺乖・達密里・密兒紀・